

永福寺略年表

文治五年 (1189)

- 7月19日 頼朝、奥州藤原氏と戦うために鎌倉を出発する。
- 12月9日 頼朝、奥州平泉で見た諸堂に感激し、永福寺建立を決める。

建久二年 (1191)

- 2月15日 頼朝、永福寺を建てる場所を決めるため、大倉周辺を探す。

建久三年 (1192)

- 1月21日 頼朝、二階堂建設現場で土工事を見る。
- 8月27日 頼朝、庭造りの専門家、静玄を京都から招き、庭石の配置について相談する。
- 9月11日 静玄、庭の池に石をならべ、頼朝はこの様子を見学する。
- 10月29日 二階堂の扉と仏背後の壁面が完成する。奥州毛越寺の金堂（円隆寺）の壁面を模す。
- 11月13日 頼朝、庭石の置き方に満足せずやり直させる。
- 11月25日 二階堂完成、導師は三井寺の公顕。

建久四年 (1193)

- 11月27日 阿弥陀堂完成、導師は前権僧正真円。

建久五年 (1194)

- 12月26日 新造薬師堂完成。導師は前権僧正勝賢。

正治元年 (1199)

- 正月13日 頼朝、53才で没する。
- 9月23日 頼家、永福寺で蹴鞠を行う。

正治二年 (1200)

- 閏2月29日 頼家、釣殿で遊ぶ。

建暦元年 (1211)

- 4月29日 実朝、時鳥の声を聞くために訪れるが聞けずに空しく帰る。

建保二年 (1214)

- 3月9日 実朝、永福寺で桜の花見。

建保五年 (1217)

- 12月25日 実朝、永福寺僧坊で終夜歌会を行う。

寛喜元年 (1229)

- 3月15日 頼経、花見。
- 10月26日 頼経、蹴鞠、歌会を行う。

貞永元年 (1232)

- 11月29日 頼経、雪見、釣殿で和歌会を行う。

寛元三年 (1245)

- 10月12日 頼経、如法経を永福寺奥山に納める。

宝治元年 (1247)

- 6月5日 三浦の乱、三浦光村、永福寺惣門の内側に陣をかまえる。

建長三年 (1251)

- 3月10日 頼嗣、永福寺で花見。

文応元年 (1260)

- 2月18日 宗尊親王、桜の花を見る。

弘安三年 (1280)

- 10月28日 鎌倉大火で、二階堂焼失。

延慶三年 (1310)

- 11月6日 浜辺の火の手で二階堂、大門、鐘楼焼け落ちる。

元弘三年 (1333)

- 5月 北条一族滅亡後、千寿王が別当坊に滞在。

応永十二年 (1405)

- 12月17日 永福寺炎上する。

国指定史跡

永福寺跡

1. 建立の目的

永福寺は、源頼朝が文治5年(1189)に奥州平泉を攻めた後、戦いで亡くなった数万の将兵の鎮魂のために建てた寺院です。頼朝は、平泉で毛越寺や中尊寺を見て、永福寺の建立を思いつたとされています。

2. 境内

頼朝が征夷大將軍に任命された建久3年(1192)に中心の二階堂が完成しました。この堂の名は、現在の地名ともなっています。

建久5年(1194)までに、二階堂の両脇の阿弥陀堂、薬師堂が完成します。この三つの堂を中心に惣門、南門、釣殿、多宝塔、鐘楼、僧坊などの建物があつたとされ、当時の旅日記などの文献には「その姿形は極楽の様子をそのまま表したようだ」と形容されています。二階堂の本尊は釈迦如来と考えられ、阿弥陀堂の阿弥陀如来、薬師堂の薬師如来と併せて三尊を祀る寺院でした。

頼朝の没後、頼家、実朝、頼経以下歴代の將軍たちは、境内で華やかな行事(蹴鞠、酒宴、花見、雪見、歌会等)を行うようになり、永福寺は幕府の迎賓館としても使われていくようになります。

鎌倉時代中期には大きな修理が行われ、鎌倉時代後期には二度にわたる火災に遭い、消失、再建を繰り返しました。応永12年(1405)12月の火災では主な建物が焼け落ち、その後しばらくして記録が途絶えてしまいます。この火災の後には再建されることなく、廃絶してしまったと考えられます。

3. 整備事業

当時の絵図などがなく、堂の規模や配置などは分かっていませんでしたが、昭和58年～平成8年にかけて、中心域約15,800㎡の発掘調査が行われ、中心の二階堂、阿弥陀堂、薬師堂のほか、複廊、翼廊、釣殿、橋、庭園の規模や配置が明らかになりました。この成果から、永福寺は全国的に見ても有数の規模を持つ、当時の代表的な寺院であつたことが分かりました。

鎌倉市では、史跡指定地の公有地化を進めるとともに、平成19年からは、調査成果を基にした建物の基壇(基礎)と庭園の復元など、永福寺跡の環境整備事業を実施してきました。

建物跡の表示

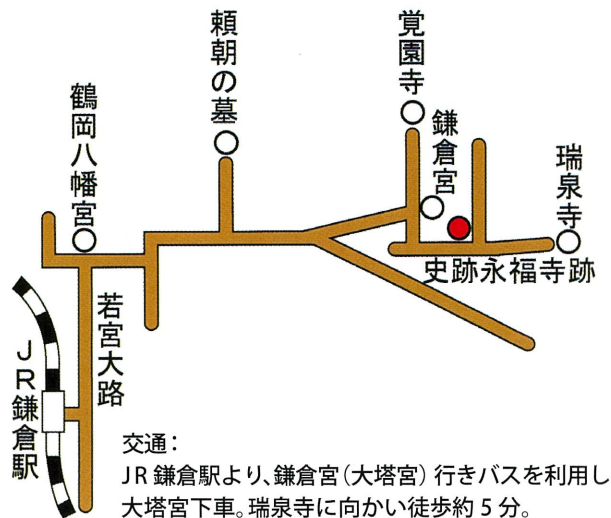
頼朝や政子らが踏みしめた当時の地面の上に厚さ60cmの盛土をして遺跡を保護しながら、同じ位置に二階堂、阿弥陀堂、薬師堂の基壇を創建当時と同じ木製で再現しています。それぞれの堂を結ぶ廊下や釣殿は礎石を設置して平面の形を示しています。使用している木材、石材は調査で発見された材質と同じものを新たに設置しています。

庭園の整備

池も30cmのかさ上げをして、鎌倉時代の池を保護しながら再現しています。水際は浜砂利を敷き詰めて海浜の様子を復元し、庭石はできる限り本物を露出展示しています。本来の池はさらに東の道路側へ広がること分かっていますが、復元ができないため、暫定的に板柵の護岸で池を区切っています。



出土した鬼瓦



発行 鎌倉市教育委員会
〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号
平成28(2016)年4月

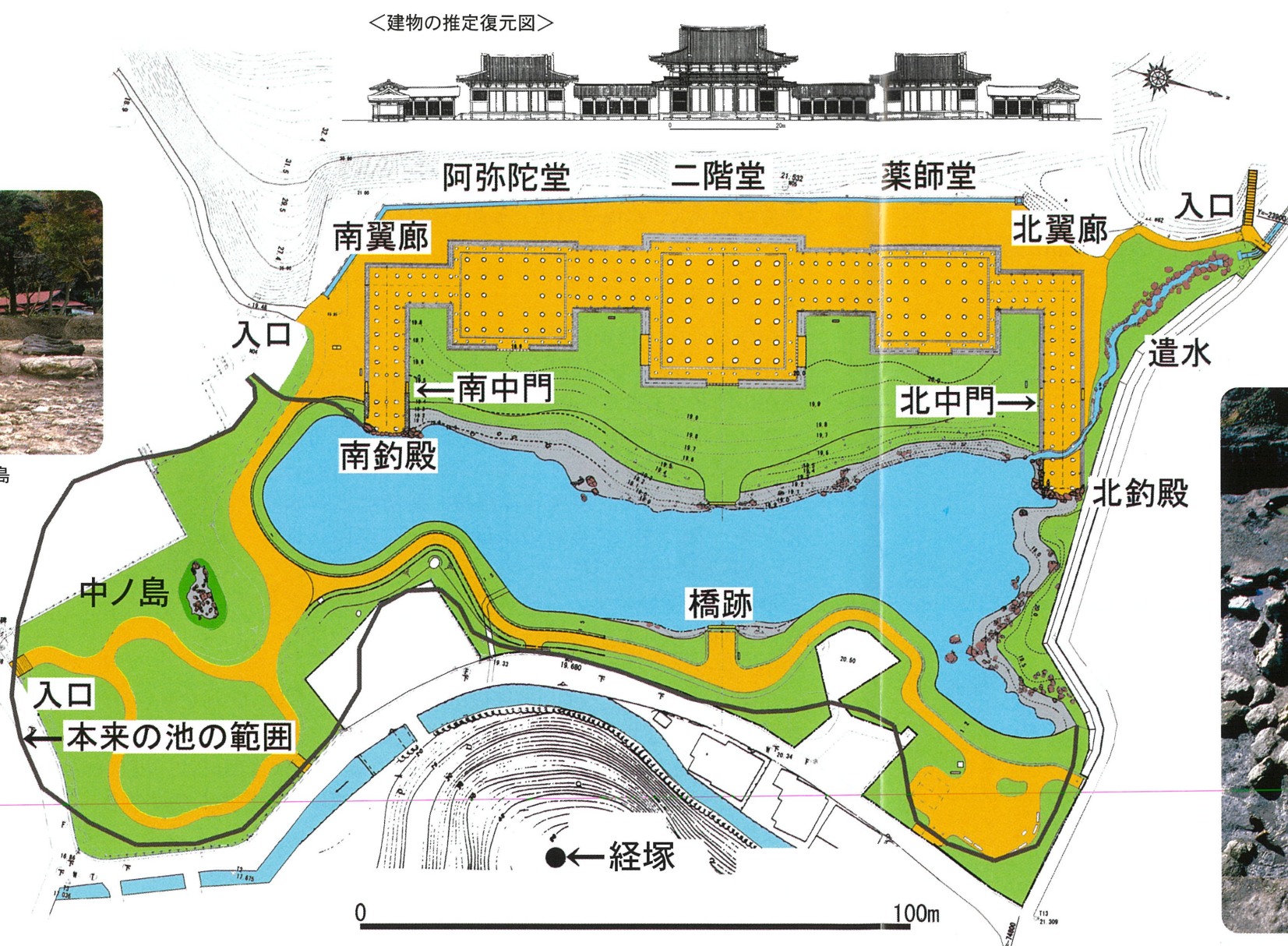
発掘調査の成果と整備の状況



埋め戻されている中ノ島



経塚で発見された銅製経筒



北翼廊の調査



北釣殿と遣水の調査



遣水の流路の調査



南釣殿と池の岸边



池東岸の橋脚



薬師堂の調査